

もの言う牧師のエッセー 第295話

「生涯現役」

7月18日、日本が世界に誇る日野原重明ドクターが亡くなった。人間ドック導入や生活習慣病の名付け親、ターミナルケア（終末期医療）の普及など、彼の功績については枚挙に暇がないが、睡眠時間5時間、96歳までは週一度の徹夜もこなし、100歳を過ぎても2、3年先までスケジュールがぎっしり。朝、昼の食事はミルクやクッキーなど簡単なもの、しっかり食べるのは夜だけで、「ハングリーな状態の方が長生きできる」。

実は彼は、1970年、福岡での内科学会への途上に「よど号ハイジャック事件」に遭遇、しかも犯人の一人は彼の教え子であった。4日間拘束され「死も覚悟した」が、解放され、その後は内科医としての名声を追求する生き方をやめ、「命を与えられた」と人生観が変わったという。

100歳前に行ったインタビューで「金が全てという風潮。豊かになれば感性が鈍り感謝の気持ちを忘れてしまう」と豊かになりすぎた日本人に懸念を示し、また、チャレンジ精神が薄れてしまった若者たちには「アフリカや難民キャンプなどモノのない所で1年間生活してみたらどうだろう。安定やイージーばかりでなく、いろんな体験が必要だ」とも。結局のところ、彼の言う“生涯現役”とは、慢心せず、感謝の心を持ち、常に目を覚まして実を結ぶ努力を怠らないことではなからうか。彼は「死に方は生き方で決まる」とも言っていたが「最期はありがとうと言って死んでゆきたい」。その言葉通り、神を心から恐れる真のキリスト者らしく、感謝に満ちた安らかな最期であった。

今から約3000年前に書かれた聖書の「知恵の書」、箴言には、ある賢人によって二つの聡明な祈りが神に捧げられている。

「二つのことをあなたにお願いします。私が死なないうちに、それをかなえてください。

不信実と偽りとを私から遠ざけてください。貧しさも富も私に与えず、ただ、私に定められた分の食物で私を養ってください。私が食べ飽きて、あなたを呑み、『主とはだれだ。』と言わないために。また、私が貧しくて、盗みをし、私の神の御名を汚すことのないために。」

箴言30章7-9節。

生涯現役で神を敬い、真の信仰者の道を全うしたい。

2017-8-12

